

JENDL-1 積分テストW.G. 第3回会合議事録

日時 1976年6月4日(金) 9.30am-3.30pm

場所 原研本部第36会議室

出席者 菊池, 長谷川, 中川, 成田(原研), 亀井, 飯島(NAIG), 関, 宝珠山,
佐々木(MAPI), 山本(日立), 大竹(PNC), 松延(住友)

1 JENDL-1の問題点

- Fe, Ni, Cr, Si 以外は収納された。Si 以外は何とが間に合うであろう。
- PROF-GROUCH-G-IIによる重核の処理結果

	RESEND	Plotter
^{235}U	OK	OK
^{238}U	負値がでる	OK
^{239}Pu	OK	原因不明のエラー
^{241}Pu	OK	OK

- ^{238}U の負値が生じる → RESENDで修正する
- ^{239}Pu の plotter error → 現在調査中
- ^{238}U の ν に異常 → "
- RESENDの改良
大体OKであり, 6月10日までには完成
- 非分離共鳴パラメータ
penetrabilityの処理に問題があり, 入れ換える。
2, 3日で完了する予定
- 重核全部をETOXに入れるのは6月20頃になりそうである。

2 ETOXの問題点

- 処理上の問題
 ^{238}U の negative value, ^{240}Pu の multi level 表示は困るとの事で,
中川氏と宝珠山氏で検討する事となる。

- Cross check ^{239}Pu , 0°K
 - 無限稀釈断面積は大丈夫である。
 - 分離共鳴領域では，積分の収束条件に注意すれば大丈夫である。
 - 非分離共鳴領域は σ_c で 8% 程度の不一致が，ETOX-II と SUPERTOG で見られる。
 - 結論として，非分離共鳴領域の誤差は，解析の際留意するとして，処理に入って良い。
 - 但し ^{238}U についても誤差評価をしておく必要がある。

3 FCAの炉心の決定

- 亀井，菊池両氏より，FCAの炉心について説明があった。
- 解析可能な全炉心を採用する事に決められた。

内訳は

I-1, I-4, I-6, II-4S, II-5S, III-1, III-2S, N-1, N-1P',
N-2, N-3, V-1, V-2, V-2R, VI-1, VI-2

- S_N 補正は，こちらでも全部に対して行なう。
- 非均質効果は k を補正する事にし，EXPANDA-75で行なう。

4 当面のスケジュール

